

令和7年10-12月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは2.0ポイントの上昇

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和7年10-12月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和7年11月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：908社（45.4％） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（％）
製造業	550	322	58.5％
建設業	250	115	46.0％
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	471	39.3％
合計	2,000	908	45.4％

2. 調査結果

（1）総合

	令和7年				令和8年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲26.3	▲24.8	▲25.1	▲23.1	▲26.6	▲28.1
売上DI	▲18.0	▲16.6	▲12.3	▲9.2	—	—
採算DI	▲29.5	▲24.7	▲23.8	▲23.2	—	—

総合の業況DIは、前期比2.0ポイント上昇の▲23.1となった。

経営状況では、売上DIは前期比3.1ポイント上昇の▲9.2、また、採算DIは同0.6ポイント上昇の▲23.2となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比3.5ポイント低下の▲26.6、半年後は同5.0ポイント低下の▲28.1を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和7年				令和8年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲23.3	▲27.0	▲25.2	▲17.4	▲21.3	▲20.1
売上DI	▲16.9	▲20.0	▲8.3	▲0.3	—	—
採算DI	▲23.3	▲21.0	▲17.2	▲12.9	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比7.8ポイント上昇の▲17.4となった。

経営状況では、売上DIは、前期比8.0ポイント上昇の▲0.3、採算DIは同4.3ポイント上昇の▲12.9となった。

「お客様が安定してきている事と新規開拓営業が少しずつ結果につながってきている。」「取引先や事業内容により受注濃淡があるが、総合して計画通り。」「数字的には昨年より良いが、上げ幅も微増なので、苦しい状態が続いている。」「防衛予算増加により関連受注が増加している。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比3.9ポイント低下の▲21.3、半年後は同2.7ポイント低下の▲20.1を見込んでおり、「自動車業界の動向が先行き不透明な状況である。新規顧客の開拓を進めているが、まだこれからといった状況である。」「今後、欧州・中国の景気回復が順調に進めば経営状況は良くなると考えている。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和7年				令和8年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
一般機械	▲17.6	▲15.5	▲28.9	▲15.3	▲20.0	▲16.7
電気機械	▲19.3	▲23.0	▲18.2	▲8.5	▲9.9	▲18.3
輸送用機械	▲13.0	▲36.5	▲10.6	▲6.1	▲12.2	▲8.2
その他	▲34.1	▲33.9	▲32.5	▲29.1	▲33.0	▲28.7

中分類で見ると、一般機械は前期比13.6ポイント上昇の▲15.3、電気機械は同9.7ポイント上昇の▲8.5、輸送用機械は同4.5ポイント上昇の▲6.1となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比4.7ポイント低下の▲20.0、電気機械が同1.4ポイント低下の▲9.9、輸送用機械は同6.1ポイント低下の▲12.2、半年後は一般機械が同1.4ポイント低下の▲16.7、電気機械が同9.8ポイント低下の▲18.3、輸送用機械は同2.1ポイント低下の▲8.2を見込んでいる。

< 建設業 >

	令和7年				令和8年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲1.6	0.0	4.1	▲2.6	▲7.9	▲14.9
売上DI	6.0	▲10.3	2.5	▲1.8	—	—
採算DI	▲12.8	▲19.0	▲0.8	▲16.1	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比6.7ポイント低下の▲2.6となった。

経営状況では、売上DIは前期比4.3ポイント低下の▲1.8、採算DIは同15.3ポイント低下の▲16.1となった。

「受注単価および、発注単価は堅調に推移しておりますが、賃上げを含む人件費や原材料費の上昇が収益を圧迫しており、業績としては横ばいもしくはやや厳しい状況です。」「高齢化・人不足が顕著で、それに伴い事業縮小が余儀なくされている。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比5.3ポイント低下の▲7.9、半年後は同12.3ポイント低下の▲14.9を見込んでおり、「市の入札制度変更の影響が大きく、今後の見通しが立たない。」といった声も聞かれた。

< 商業・サービス業 >

	令和7年				令和8年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲34.4	▲29.4	▲32.2	▲32.0	▲34.8	▲36.9
売上DI	▲24.3	▲15.9	▲18.6	▲17.2	—	—
採算DI	▲37.5	▲28.7	▲33.9	▲32.2	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比0.2ポイント上昇の▲32.0となった。

経営状況では、売上DIは前期比1.4ポイント上昇の▲17.2、採算DIは同1.7ポイント上昇の▲32.2となった。「通販アスクルの受注が停止された影響が売上に出ており、顧客の購買力も低迷しているので心配であり、物価の高騰、最低賃金の上昇で経費増で経営を圧迫しています。」「歴史的な貴金属相場高騰により、仕入れから販売まで好悪合わせ多大な影響が見受けられます。これ以上の相場高騰は悪影響の方が強くなると予想し、思い切って在庫を積み増したところですよ。」「世情の価格高騰への理解が進み販売価格を適正値に値上げできた。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比2.8ポイント低下の▲34.8、半年後は同4.9ポイント低下の▲36.9を見込んでいる。「抹茶の輸出増で、茶葉の価格が昨年に比べ、4～5倍になっている。来年の新茶の相場が読めない。茶葉界全体が先の見通せない状況。」「県内は全般的に、日産の問題とトランプ関税で見通しが悪い。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和7年				令和8年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
卸売業	▲37.5	▲29.6	▲30.0	▲33.7	▲42.2	▲37.1
小売業	▲46.3	▲40.1	▲41.0	▲41.5	▲42.8	▲49.7
飲食店	▲19.4	▲18.2	▲24.2	▲27.7	▲20.3	▲18.8
サービス業	▲19.8	▲17.2	▲24.6	▲18.5	▲25.0	▲26.6

業種別では、卸売業は前期比3.7ポイント低下の▲33.7、小売業は同0.5ポイント低下の▲41.5、飲食店は同3.5ポイント低下の▲27.7、サービス業は同6.1ポイント上昇の▲18.5となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比8.5ポイント低下の▲42.2、小売業は同1.3ポイント低下の▲42.8、飲食店は同7.4ポイント上昇の▲20.3、サービス業は同6.5ポイント低下の▲25.0、半年後では卸売業が同3.4ポイント低下の▲37.1、小売業は同8.2ポイント低下の▲49.7、飲食店は同8.9ポイント上昇の▲18.8、サービス業は同8.1ポイント低下の▲26.6を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和7年				令和8年	
		1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
中規模	業況DI	▲19.4	▲15.1	▲17.4	▲18.0	▲21.6	▲22.8
	売上DI	▲9.9	▲10.1	▲5.8	▲1.5	—	—
	採算DI	▲25.0	▲20.7	▲20.4	▲20.0	—	—
小規模	業況DI	▲34.4	▲36.1	▲34.0	▲28.9	▲32.3	▲34.2
	売上DI	▲27.5	▲24.3	▲19.9	▲18.0	—	—
	採算DI	▲34.7	▲29.4	▲27.9	▲27.0	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比0.6ポイント低下の▲18.0、小規模企業は同5.1ポイント上昇の▲28.9となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比4.3ポイント上昇の▲1.5、採算DIが同0.4ポイント上昇の▲20.0、小規模企業は売上DIが同1.9ポイント上昇の▲18.0、採算DIが同0.9ポイント上昇の▲27.0となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比3.6ポイント低下の▲21.6、半年後が同4.8ポイント低下の▲22.8、小規模企業は3か月後が同3.4ポイント低下の▲32.3、半年後が同5.3ポイント低下の▲34.2を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和7年				令和8年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
横浜	▲20.2	▲20.9	▲20.8	▲24.3	▲26.6	▲27.5
川崎	▲33.3	▲28.0	▲27.6	▲17.9	▲27.7	▲27.1
横須賀	▲27.8	▲24.7	▲17.2	▲29.2	▲30.3	▲30.3
平塚	▲29.4	▲23.4	▲41.7	▲27.4	▲23.4	▲28.7
藤沢	▲25.7	▲28.7	▲18.6	▲17.0	▲24.2	▲29.3
相模原	▲28.7	▲31.7	▲28.4	▲28.0	▲30.5	▲34.1
厚木	▲24.3	▲27.2	▲22.7	▲21.9	▲27.1	▲27.4
足柄上・西湘	▲29.5	▲19.6	▲29.2	▲19.8	▲23.1	▲22.0

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比3.5ポイント低下の▲24.3）、川崎地区（同9.7ポイント上昇の▲17.9）、横須賀地区（同12.0ポイント低下の▲29.2）、平塚地区（同14.3ポイント上昇の▲27.4）、藤沢地区（同1.6ポイント上昇の▲17.0）、相模原地区（同0.4ポイント上昇の▲28.0）、厚木地区（同0.8ポイント上昇の▲21.9）、足柄上・西湘地区（同9.4ポイント上昇の▲19.8）となり6地区で上昇し、2地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比2.3ポイント低下の▲26.6）、川崎地区（同9.8ポイント低下の▲27.7）、横須賀地区（同1.1ポイント低下の▲30.3）、平塚地区（同4.0ポイント上昇の▲23.4）、藤沢地区（同7.2ポイント低下の▲24.2）、相模原地区（同2.5ポイント低下の▲30.5）、厚木地区（同5.2ポイント低下の▲27.1）、足柄上・西湘地区（同3.3ポイント低下の▲23.1）となり1地区で上昇し、7地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比3.2ポイント低下の▲27.5）、川崎地区（同9.2ポイント低下の▲27.1）、横須賀地区（同1.1ポイント低下の▲30.3）、平塚地区（同1.3ポイント低下の▲28.7）、藤沢地区（同12.3ポイント低下の▲29.3）、相模原地区（同6.1ポイント低下の▲34.1）、厚木地区（同5.5ポイント低下の▲27.4）、足柄上・西湘地区（同2.2ポイント低下の▲22.0）となり8地区全てで低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部 企画広報課 徳田

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和7年10月～12月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		322	115	93	189	65	124	471	908
業況判断	現在の業況	▲17.4	▲2.6	▲33.7	▲41.5	▲27.7	▲18.5	▲32.0	▲23.1
	3ヶ月後の業況	▲21.3	▲7.9	▲42.2	▲42.8	▲20.3	▲25.0	▲34.8	▲26.6
	半年後の業況	▲20.1	▲14.9	▲37.1	▲49.7	▲18.8	▲26.6	▲36.9	▲28.1
経営状況	売上	▲0.3	▲1.8	▲15.6	▲26.0	▲15.6	▲5.9	▲17.2	▲9.2
	採算	▲12.9	▲16.1	▲25.6	▲39.4	▲53.1	▲14.7	▲32.2	▲23.2
	引き合い／客数	▲3.5	5.4	▲14.4	▲36.1	▲28.1	▲5.9	▲22.8	▲12.3
	単価	19.6	25.9	14.6	▲17.2	4.7	9.4	▲0.9	9.9
	仕入価格	▲64.7	▲72.3	▲67.8	▲77.9	▲84.4	▲61.2	▲72.5	▲69.7
	資金繰り	▲16.5	▲11.6	▲20.2	▲38.5	▲34.9	▲21.4	▲29.9	▲22.7
	残業	▲2.2	▲14.3	▲11.1	▲13.6	▲17.2	▲9.4	▲12.5	▲9.0
	設備稼働	▲3.8	▲6.4	—	—	—	—	—	▲4.5
前期経営実績	売上水準	▲18.9	▲3.6	▲20.9	▲35.6	▲23.4	▲13.7	▲25.2	▲20.2
	利益水準	3.8	14.3	▲1.1	▲17.3	▲29.7	1.7	▲10.9	▲2.4
	在庫	8.9	0.0	6.8	▲0.6	▲4.7	▲1.8	0.0	3.2
	投資	▲6.6	▲6.4	▲13.3	▲18.3	▲23.4	▲7.1	▲15.2	▲10.9
	雇用状況	▲25.2	▲46.4	▲15.6	▲24.0	▲29.7	▲42.1	▲27.8	▲29.2

参考＜前回調査＞ 景気動向調査 (令和7年7月～9月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		311	121	101	195	66	130	492	924
業況判断	現在の業況	▲25.2	4.1	▲30.0	▲41.0	▲24.2	▲24.6	▲32.2	▲25.1
	3ヶ月後の業況	▲26.6	0.8	▲27.3	▲40.6	▲12.3	▲29.1	▲31.1	▲25.4
	半年後の業況	▲22.7	▲5.0	▲31.3	▲43.5	▲18.5	▲27.6	▲33.4	▲26.0
経営状況	売上	▲8.3	2.5	▲10.3	▲24.7	▲11.3	▲19.7	▲18.6	▲12.3
	採算	▲17.2	▲0.8	▲20.6	▲41.4	▲42.2	▲28.7	▲33.9	▲23.8
	引き合い／客数	▲8.6	6.7	▲18.6	▲36.0	▲26.6	▲16.4	▲26.0	▲15.7
	単価	15.6	29.4	6.2	▲10.3	1.6	▲2.5	▲3.2	7.6
	仕入価格	▲60.9	▲63.9	▲69.1	▲75.8	▲79.7	▲67.2	▲72.7	▲67.5
	資金繰り	▲22.8	▲5.0	▲20.8	▲31.5	▲31.3	▲27.3	▲28.2	▲23.3
	残業	▲11.6	▲8.4	▲8.2	▲15.8	▲27.4	▲18.5	▲16.5	▲13.7
	設備稼働	▲10.0	2.6	—	—	—	—	—	▲6.5
前期経営実績	売上水準	▲15.3	▲5.1	▲18.6	▲33.3	▲12.7	▲21.3	▲24.4	▲18.7
	利益水準	7.3	7.6	1.0	▲17.4	▲12.9	▲4.1	▲9.5	▲1.5
	在庫	8.6	▲4.4	10.5	▲3.3	▲1.6	▲6.9	▲1.1	1.8
	投資	▲7.3	▲0.9	▲4.3	▲13.9	▲11.1	▲4.3	▲9.1	▲7.4
	雇用状況	▲21.3	▲44.5	▲20.8	▲22.8	▲34.9	▲35.8	▲27.5	▲27.6

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		161	161	56	59	268	203	485	423
業況判断	現在の業況	▲17.4	▲17.4	5.4	▲10.2	▲23.2	▲43.6	▲18.0	▲28.9
	3ヶ月後の業況	▲15.0	▲27.5	▲7.1	▲8.6	▲28.7	▲43.0	▲21.6	▲32.3
	半年後の業況	▲15.7	▲24.4	▲7.1	▲22.4	▲30.3	▲45.5	▲22.8	▲34.2
経営状況	売上	3.2	▲3.8	9.1	▲12.3	▲6.6	▲31.4	▲1.5	▲18.0
	採算	▲13.9	▲11.9	▲12.7	▲19.3	▲25.2	▲41.7	▲20.0	▲27.0
	引き合い／客数	3.2	▲10.1	12.7	▲1.8	▲12.7	▲36.3	▲4.4	▲21.3
	単価	21.5	17.6	30.9	21.1	5.4	▲9.4	13.8	5.4
	仕入価格	▲63.3	▲66.0	▲69.1	▲75.4	▲68.5	▲77.8	▲66.8	▲72.9
	資金繰り	▲16.5	▲16.5	▲12.7	▲10.5	▲26.4	▲34.7	▲21.4	▲24.2
	残業	▲0.6	▲3.8	▲9.1	▲19.3	▲8.9	▲17.3	▲6.2	▲12.3
	設備稼働	▲3.2	▲4.4	▲3.6	▲9.1	—	—	▲3.3	▲5.6
前期経営実績	売上水準	▲14.6	▲23.3	3.6	▲10.5	▲16.6	▲36.8	▲13.6	▲27.9
	利益水準	12.7	▲5.0	36.4	▲7.0	1.9	▲28.0	9.6	▲16.1
	在庫	15.2	2.5	▲1.9	1.9	0.4	▲0.5	5.2	1.0
	投資	2.5	▲15.7	5.5	▲18.2	▲10.4	▲21.5	▲4.1	▲18.8
	雇用状況	▲27.2	▲23.3	▲60.0	▲33.3	▲35.0	▲18.0	▲35.3	▲22.2

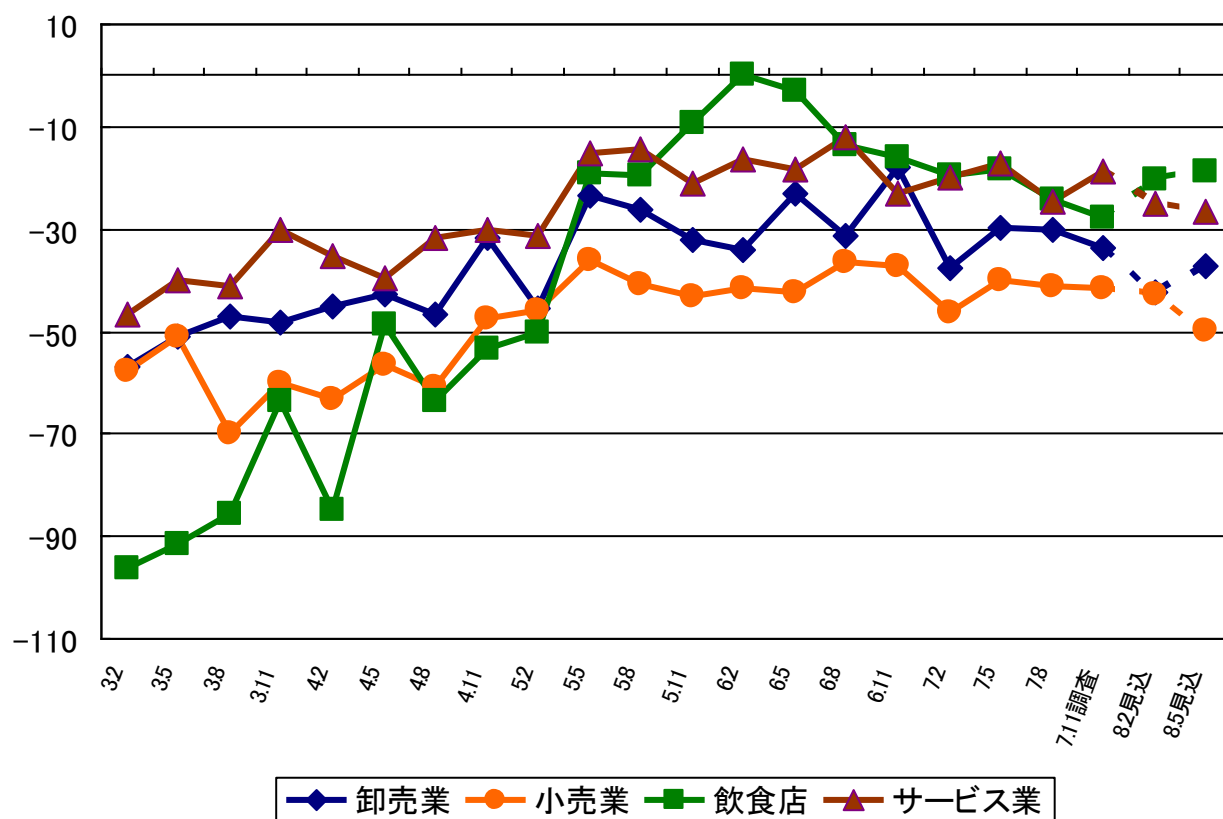
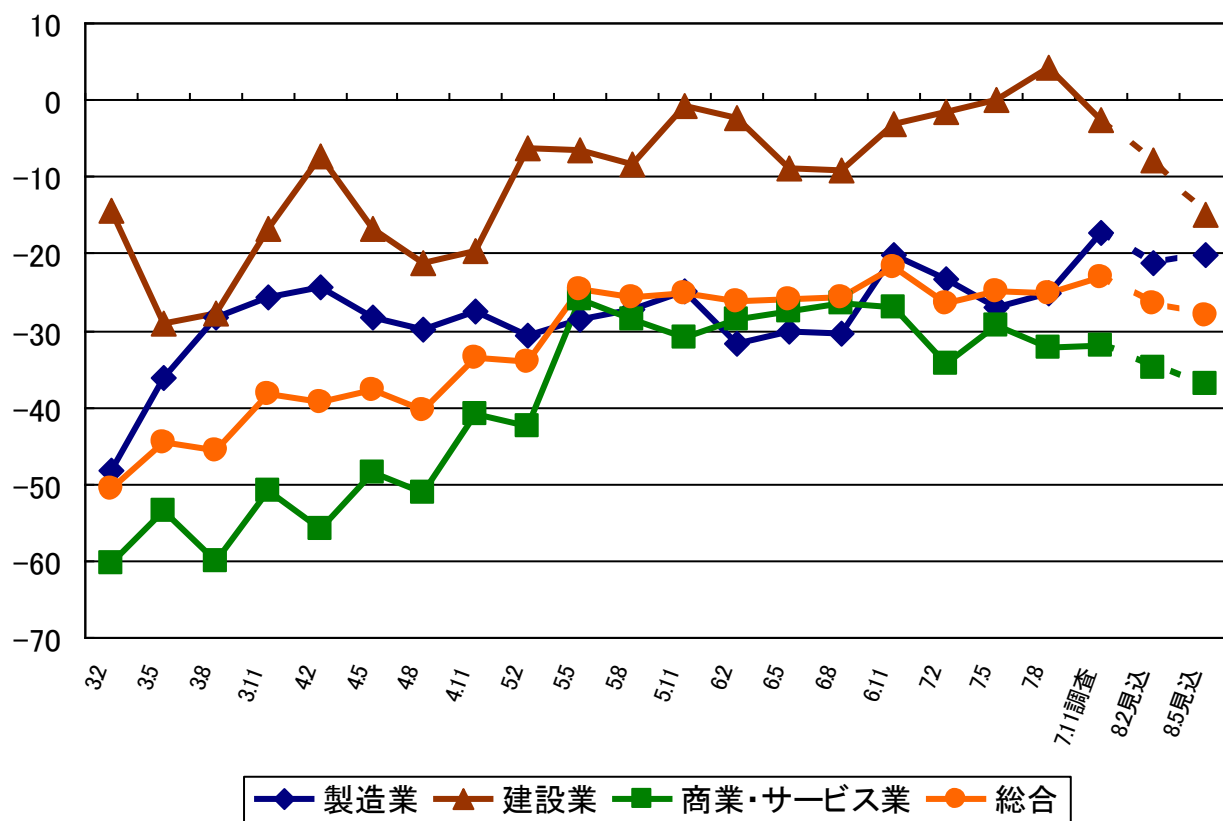
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		232	123	89	95	100	82	96	91	908
業況判断	現在の業況	▲24.3	▲17.9	▲29.2	▲27.4	▲17.0	▲28.0	▲21.9	▲19.8	▲23.1
	3ヶ月後の業況	▲26.6	▲27.7	▲30.3	▲23.4	▲24.2	▲30.5	▲27.1	▲23.1	▲26.6
	半年後の業況	▲27.5	▲27.1	▲30.3	▲28.7	▲29.3	▲34.1	▲27.4	▲22.0	▲28.1
経営状況	売上	▲12.2	1.7	▲14.1	▲9.9	▲12.4	▲12.2	▲16.0	3.4	▲9.2
	採算	▲22.3	▲22.6	▲23.8	▲25.6	▲16.5	▲26.8	▲28.7	▲21.6	▲23.2
	引き合い／客数	▲7.4	▲13.9	▲16.5	▲5.6	▲14.4	▲18.3	▲22.3	▲6.8	▲12.3
	単価	7.0	16.7	12.9	10.0	22.9	4.9	3.2	3.4	9.9
	仕入価格	▲70.9	▲75.4	▲60.7	▲70.3	▲72.2	▲65.9	▲66.0	▲71.6	▲69.7
	資金繰り	▲25.8	▲13.2	▲21.2	▲28.9	▲14.6	▲30.5	▲22.8	▲23.9	▲22.7
	残業	▲9.2	▲7.8	▲8.2	▲8.9	▲8.2	▲8.6	▲16.1	▲4.5	▲9.0
	設備稼働	3.8	0.0	▲5.6	▲2.5	▲10.0	▲10.0	▲8.2	▲15.4	▲4.5
前期経営実績	売上水準	▲18.7	▲13.9	▲12.9	▲27.8	▲20.6	▲36.6	▲23.2	▲12.6	▲20.2
	利益水準	▲2.6	1.7	3.5	▲8.9	4.1	▲17.3	▲1.1	▲1.1	▲2.4
	在庫	2.3	0.0	4.8	▲1.1	5.4	7.4	2.2	8.0	3.2
	投資	▲7.6	▲7.1	0.0	▲18.9	▲9.3	▲20.0	▲16.1	▲14.9	▲10.9
	雇用状況	▲32.3	▲22.1	▲39.3	▲26.7	▲35.1	▲30.0	▲21.7	▲24.1	▲29.2

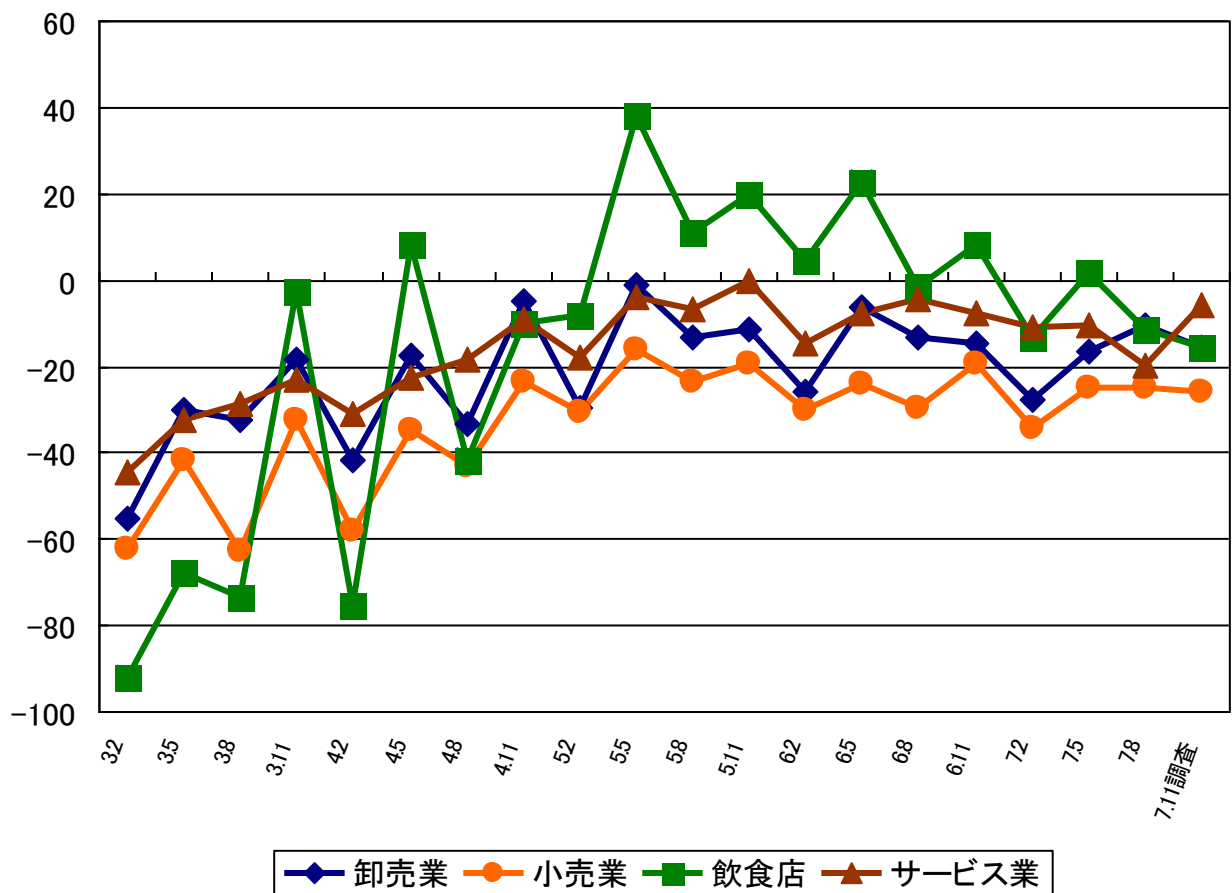
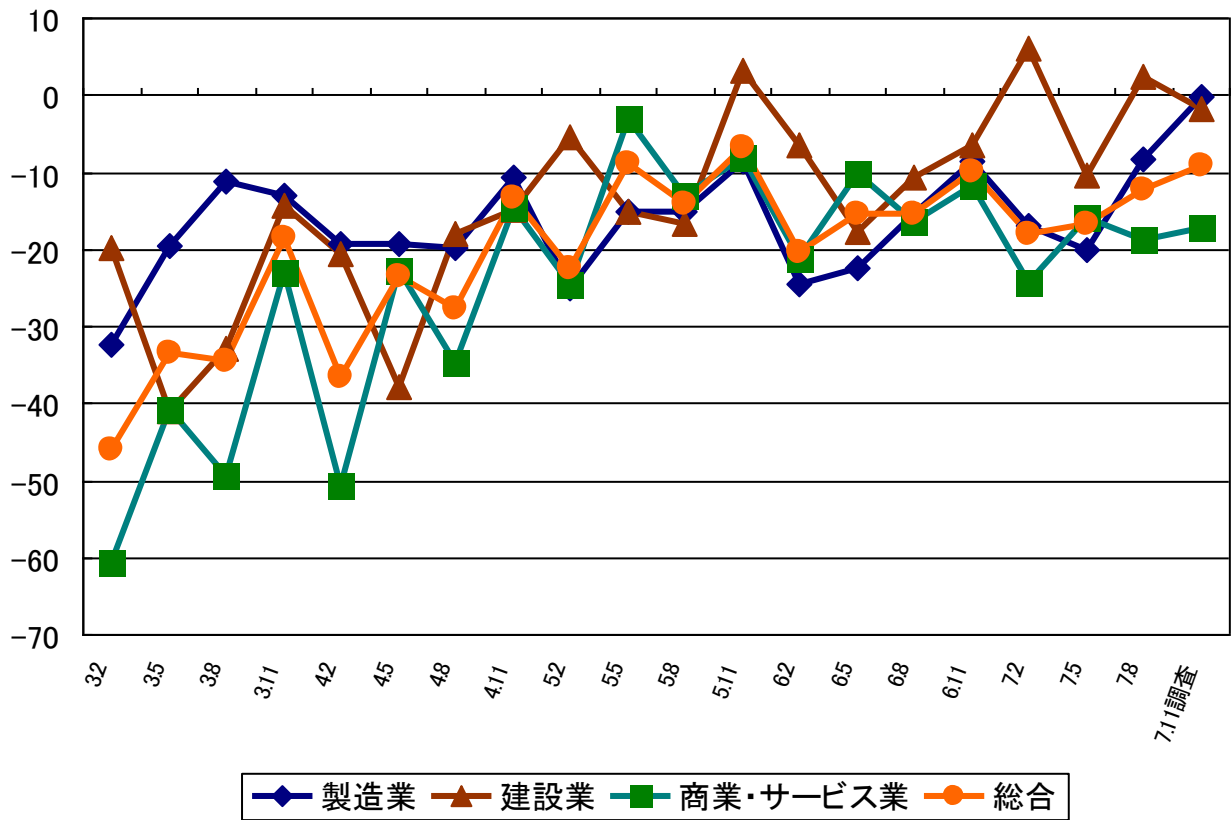
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		85	71	49	117	322
業況判断	現在の業況	▲15.3	▲8.5	▲6.1	▲29.1	▲17.4
	3ヶ月後の業況	▲20.0	▲9.9	▲12.2	▲33.0	▲21.3
	半年後の業況	▲16.7	▲18.3	▲8.2	▲28.7	▲20.1
経営状況	売上	0.0	5.7	8.2	▲7.9	▲0.3
	採算	▲4.8	▲4.3	▲8.2	▲26.3	▲12.9
	引き合い／客数	2.4	10.0	▲4.1	▲15.9	▲3.5
	単価	13.1	28.6	24.5	16.7	19.6
	仕入価格	▲63.1	▲71.4	▲53.1	▲66.7	▲64.7
	資金繰り	▲19.0	▲8.6	▲12.2	▲21.2	▲16.5
	残業	▲2.4	5.7	2.0	▲8.8	▲2.2
	設備稼働	▲3.6	10.0	4.1	▲15.9	▲3.8
前期経営実績	売上水準	▲25.0	▲5.7	▲4.1	▲28.9	▲18.9
	利益水準	▲7.1	15.7	14.3	0.0	3.8
	在庫	9.6	8.6	10.2	8.0	8.9
	投資	▲9.5	▲8.6	2.0	▲7.0	▲6.6
	雇用状況	▲28.6	▲27.1	▲32.7	▲18.4	▲25.2

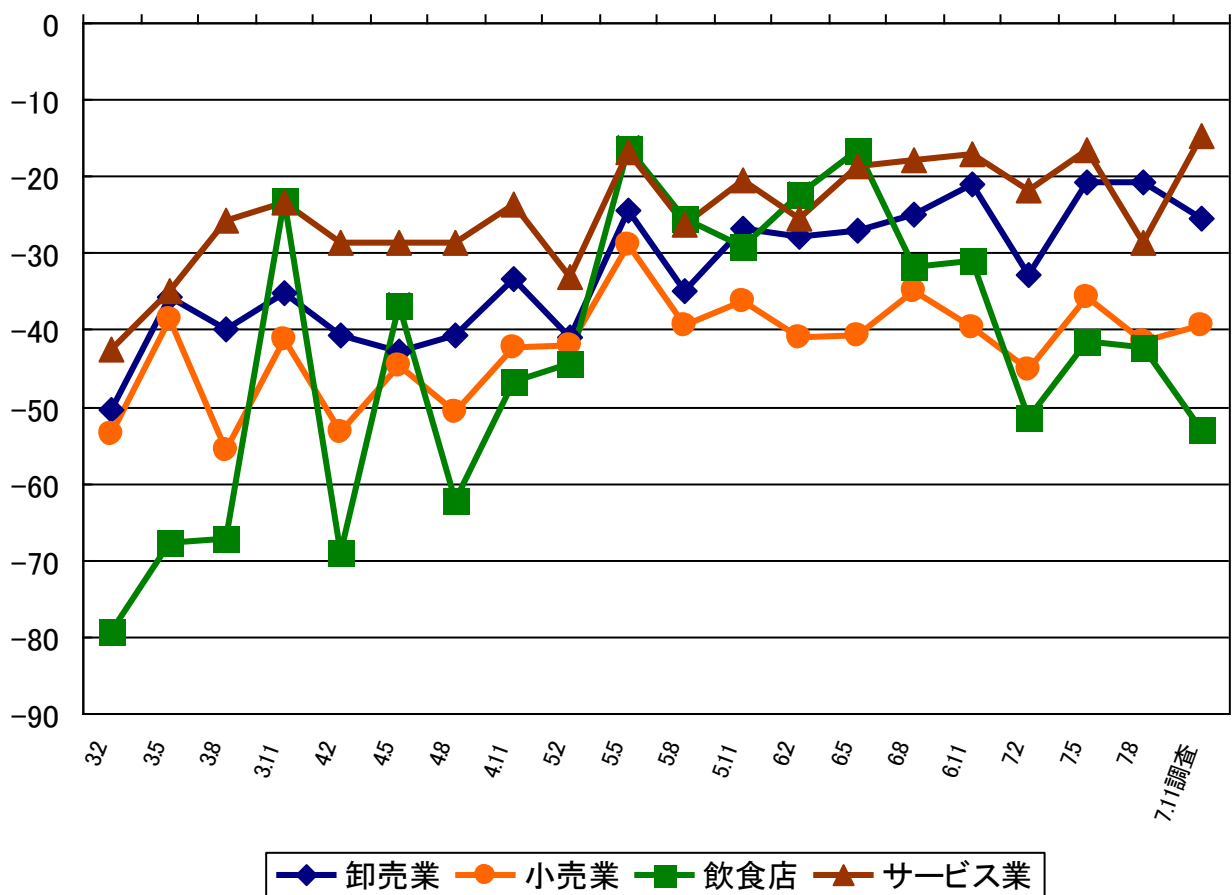
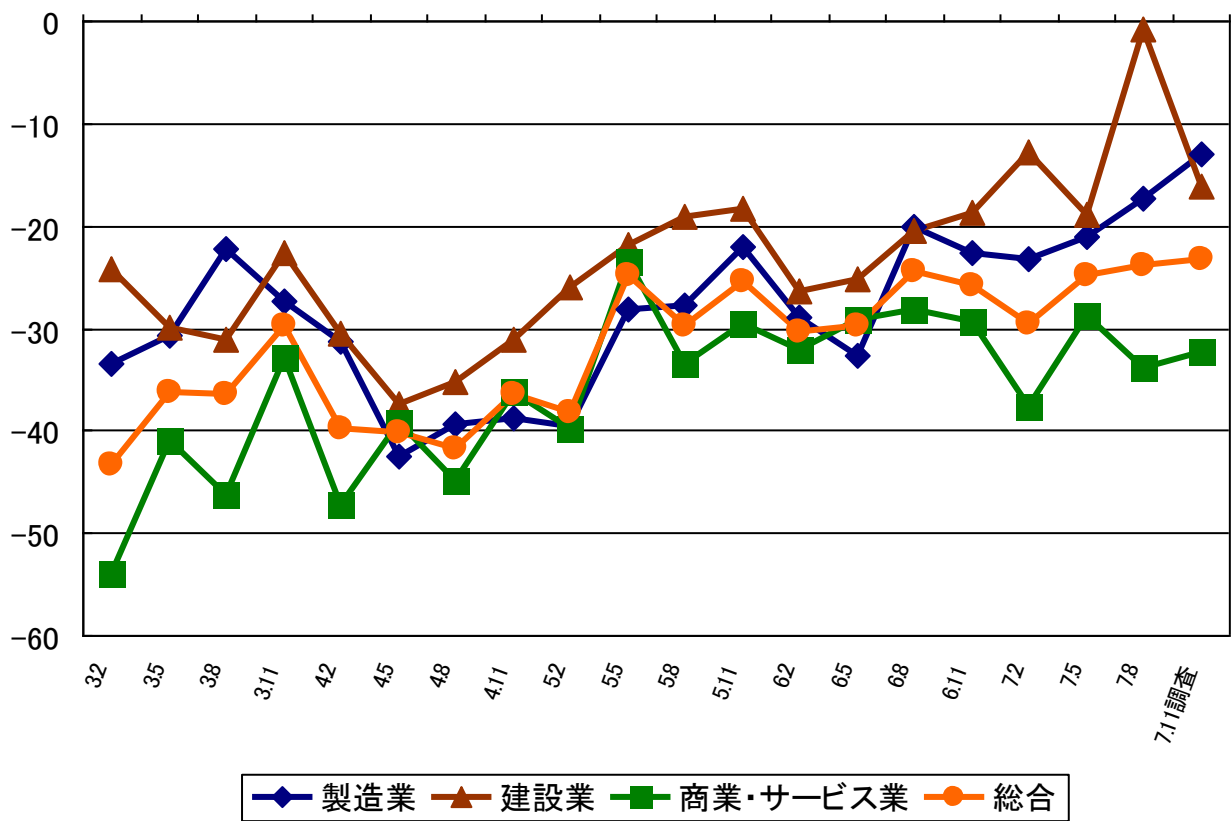
業況DIの推移



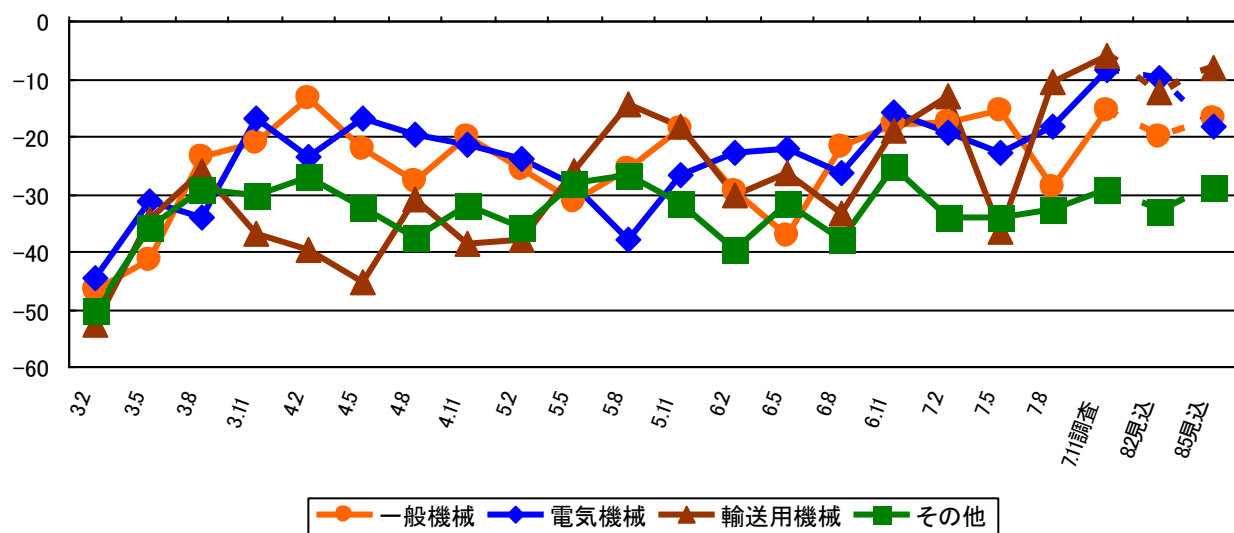
売上DIの推移



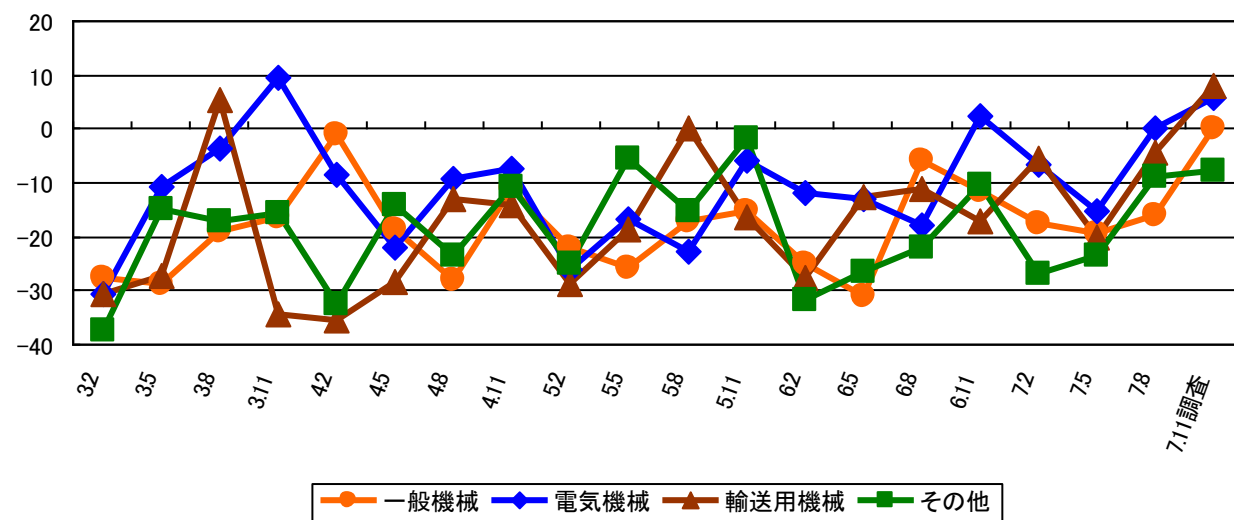
採算DIの推移



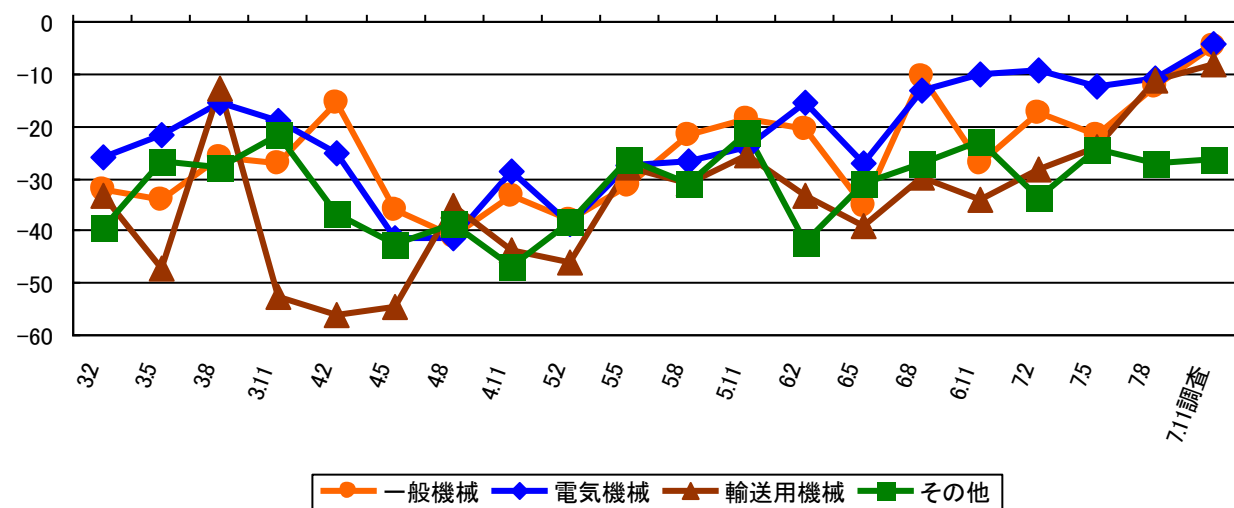
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



<製造業>

「ベテラン従業員の定年問題を受けて、知識・技術に関する知の継承を円滑に進めるため、製造現場のICT化を進める。」
「9月後半頃から急激にねじ市場は減速傾向に入った。自動車関連、スマートフォン関連いずれも春から夏にかけての活況と比べて大幅に低迷している。」
「受注先の状況により下振れしている。」
「海外売上が減少。」
「秋口に比べると、仕事量が落ち込んできたように感じます。環境変化に柔軟に対応できる組織作りを行っております。」
「人手不足は慢性的な状況、待遇面などで新規採用は難航している。」
「取引先や事業内容により受注濃淡があるが、総合して計画通り。」
「本年度7月に単価値上げをさせて頂きました。それにより、収益が上がりました。最低賃金の引き上げや消費税が過ぎれば、少しぐらいは余裕ができるかと期待したいです。」
「数字的には昨年より良いが、上げ幅も微増なので、苦しい状態が続いている。」
「引き合いはあるのですが受注に繋がらない状況が続いている。主になっているお得意先からの仕事が激減している。」
「自動車、建機向けの受注が低迷。」
「前期売上が不調だったが今季は昨年並みに戻っている。引き合いは多少増えているが半年先は不透明。人件費が圧迫しており利益に影響しているが今後価格改定する予定。」
「自動車業界の動向が先行き不透明な状況である。新規顧客の開拓を進めているが、まだこれからといった状況である。」
「昨年度がピークだが堅調が続くと予想。建設部門の人手不足は続く。」
「売上は上がっているが、仕入価格上昇、売価改善が遅れている」
「防衛予算増加により関連受注が増加している。」
「今後、欧州・中国の景気回復が順調に進めば経営状況は良くなると考えている。」
「各種費用が上昇傾向にあります。引き合いは増加するも、収益貢献では、時間を要します。」
「加工部品の価格を上げると、相見積もりで負けて、受注できない。」
「お客様が安定してきている事と新規開拓営業が少しずつ結果につながってきている。」
「仕事がありますが、納期が短いので残業が増えて資金繰りを圧迫。」

<建設業>

「人手不足がジワジワ来ている。」
「木造アパートの受注があり、外装・内装工事頑張ってます。」
「外注への支払いが先行したり賞与の支払いがあったので、7月から9月は赤字になってしまいました。受注も変わらずあるので、10月から12月は売上は変わらないと思いますが、外注への支払いもまだかなりあるので、あまり良くはならなさそうです。」
「観光地なのでホテル建設ラッシュが続いているが、地元業者ではなく、単価が安い地域の業者（静岡県・山梨県など）が下請で参入しているので、中々受注できない。」
「建設業界が、働き方改革で土曜日を休みにする現場が多くなり作業日数が減る。作業効率が悪くなり、利益率を上げるのが大変で、負担が大きすぎる。」
「高齢化・人手不足が顕著で、それに伴い事業縮小が余儀なくされている。」
「市の入札制度変更の影響が大きく、今後の見通しが立たない。」
「受注単価および、発注単価は堅調に推移しておりますが、賃上げを含む人件費や原材料費の上昇が収益を圧迫しており、業績としては横ばいもしくはやや厳しい状況です。」

<卸売業>

「日本茶の相場が急上昇（昨年の4倍）に伴い、商品構成の変更をしなくてはならない。」
「売上が悪くなっているのに、仕入れ価格が高くなっている。」
「仕入れ商品が、常に値上がりしています。価格転嫁が遅れているので、利益が減少している。人手不足と最低賃金の値上がりで、人件費が増えている。」
「仕入れ価格が高くなっているため、利益率が悪くなっている。年末にかけてこのような状態が続くと思う。」
「マンションリフォームが増えてきた。戸建て住宅の新築見積もりがあるが、単価が厳しい。」
「県内は全般的に、日産の問題とトランプ関税で見通しが悪い。」
「コロナ融資に甘えずぎっていた点もありますが、融資の内容が厳しくなっていて在庫を置きたくても仕入れができず勝負ができない感じです。」
「新製品の開発資金不足。」
「販売価格が不安定のため予測が立てにくい。」

<小売業>

「今のところ、落ちたところで留まっている感じです。夏が終わり涼しくなってから、新しいお客様が少し増えているので、固定客になってくれればと期待しています。」
「食品を中心とした生活必需品の値上げの影響が大きく、買い控えが起きていると思う。価格を下げてでも購買動機をきっかけにはならない状況。必要と思ってくれる層や家計的に余裕のある層にアプローチするしかない。市や県での消費喚起の支援策も期待する。」
「抹茶の輸出増で、茶葉の価格が昨年に比べ、4~5倍になっている。来年の新茶の相場が読めない。茶葉界全体が先の見通せない状況。」
「商店街に人出が少なすぎる。商店街全体が対策を取らねばいけない。」
「通販アスクルの受注が停止された影響が売上にあり、顧客の購買力も低迷しているので心配であり、物価の高騰、最低賃金の上昇で経費増で経営を圧迫しています。」
「歴史的な貴金属相場高騰により、仕入れから販売まで好悪合わせ多大な影響が見受けられます。これ以上の相場高騰は悪影響の方が強くなると予想し、思い切って在庫を積み増したところ。」
「ポイント利用などのお得な施策に偏って来ている。」
「若者の車離れ、免許証の返納により、お客様が減っている。しかし、同業者の閉店により、その紹介のお客様も増えた。部品等の値上がりが続く、客単価に影響がある。」
「例年、閑散期が終わり10月から売上が上がってくるが、今期は不調。資金繰りに不安を感じている。」
「消費者の買い控え。」
「原料・光熱費等、人件費等の上昇に利益幅も減少。」
「円安により海外商品の仕入れ金額が圧迫。」
「アスクルシステムがコンピュータウィルス（ランサムウェア）に感染した為、受発注がストップした。これにより、受発注が再開するまでの売上が立たない。また、アスクルで購入できなくなった為、客離れが発生することが予想できる。よって、元に戻るまでかなり時間が掛かると思われる。」
「一般消費者に対して、毎年値上げで対応していますが、今年は一番の拒否反応が出ています。他の菓子店、販売店とも情報交換していますが、お客様の財布の紐が大変固くなっています。」
「物価高で、買い控えも顕著。海外向けでは、USAへの輸出が減った。」

<飲食店>

「利用している物がほとんど値上げしてやりにくい。」
「10月、11月は、毎年売上が悪い、夏の反動があります。12月に近づくにつれて、良くなっていきます。」
「世情の価格高騰への理解が進み販売価格を適正値に値上げできた。」
「サラリーマン家族が少なく、売上に大きく影響している。しかも全ての食材が値上がりし、商品単価を見直すわけにはいかず、困っている。見通しは暗い。」
「最低賃金の決め方に疑問あり。高すぎる。支払えない。すべて（消費税社会保険料等の税、仕入）の支払いに追われている。」
「仕入れは、原価が上がり続けているので、売上が上がっても、利益にはなかなかならない。」
「見通しがつきません。」
「猛暑、雨など自然状況に左右されている。物価高などで消費も控えられたか。」
「仕入れ、人件費の高騰。」
「仕入れの値上げ、物価高、客数の減少、値上げをしたいができない。」

<サービス業>

「整備士不足」
「賃上げの上昇分に価格の値上げが追い付かない。」
「仕入れの商材は上がっているものの、技術料は上げられないのが現状です。」
「大型案件が7月、9月と2件解約となり売上が大幅に減少。最賃の大幅改正は顧客に直ぐには転嫁は難しく採算は悪くなる。」
「物価上昇や、夏季の気温の異常高のせいか、顧客に節約指向と外出自粛の傾向が強く、業績は伸びませんでした。」
「クリーニング会社・店の倒産、廃業の知らせ多く、個人相手の商売はもう無理ではと思います。」
「この期間中（夏）は、例年利益が出ない月である。」
「顧客管理をしっかりしていれば、業績は変わらないと思う。」
「7、8、9月は猛暑の割には、飲食店への売上は良くなかった。ネット販売もそれほどではなく、10、11月へ入ってからは相変わらず飲食店への売上は芳しくないが、ネット販売の方は少し良くなっている。相変わらず人手不足で、12月も大変そうだ。」
「インバウンド等でホテル需要が高く、受注量は増加している。」
「年度末にかけて受注は増えつつあるが、来年度は不確定。」